平成26年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

比和小学校の取組

庄原市立比和小学校

<学校概要>

平成27年1月21日現在

◆在籍児童数　49名
（通常の学級6学級）

◆学校が支援を要すると判断した
通常の学級の児童数2名
（個別の指導計画を作成済）

◆巡回相談の内容を，個別の指導計画及び
授業での具体的な指導に生かす。

<校内体制>

平成27年1月21日現在

◆特別支援教育コーディネーター1名
◆月1回，校内委員会開催
→全校で共有すべき点は職員朝会等で周知
◆巡回相談3回（5・7・10月）実施済
→授業観察後，具体的な支援方法に
ついての助言（担任・支援員・保護者）
→個別の指導計画に生かす

1　学校全体の取組

①「比和っ子学習の手引き」の作成

◆学習規律を全校で統一

②少人数を生かした授業づくり

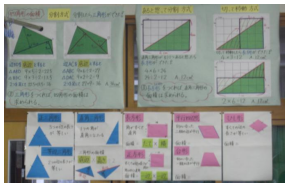
③刺激量の調整

2　授業実践報告（概要）

【授業概要】
◆算数科　第5学年 「面積」
◆既習の長方形や三角形の面積の求め方を基に平行四辺形の面積の求め方を考え，面積の求め方を説明することができる。
【学級全体の状況】
◆「基礎・基本」学習状況定着調査・タイプⅠ：89.9，タイプⅡ90.4と，特に活用したり説明したりする力が定着している。しかしひし形の判断に係る設問が県平均を下回り，図形領域への課題が見られる。
【個の状況】
◆児童A・・・筋道を立てて思考することが難しい。
面積を求める上で，作図や視空間の認識，必要な情報の選択に課題がある。

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

①既習事項の掲示



↑既習図形の
定義・公式を確認

・既習の「〇〇方式」を掲示
・前時の想起で確認
・授業中，いつでも使える
解決の手がかり

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

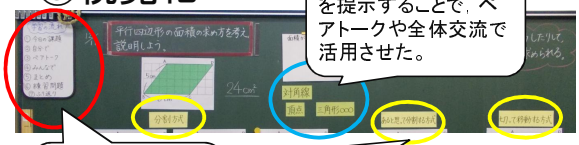
②動作化による定着

底辺・高さ，シュワッチ！！

三角形，平行四辺形，台形の面積を求める際に使う「底辺」・「高さ」の関係（直角）を，体感によって定着させる。

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

③視覚化



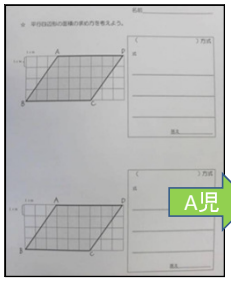
使わせたい算数用語を提示することで，ペアトークや全体交流で活用させた。

学習の流れを示すことで，見通しをもって主体的に学習させることができた。

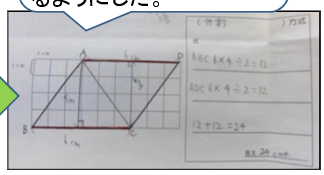
個人思考に入る前に，どんな方法でできそうか「解決方法の見通し」をもたせた。（既習）

2　授業実践報告
（個への支援）

①ワークシートの工夫



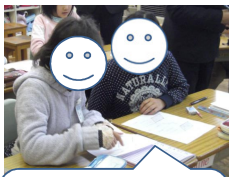
A児



図形と方眼を重ねた図に，必要な数字を書き込みながら面積を求められるようにした。

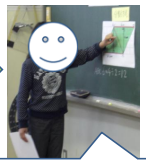
2　授業実践報告
（個への支援）

②説明の場の工夫



ペアトーク
相手の考えを聞くことで，説明の仕方の理解につながった。そして，安心して自分の考えを説明することができた。

A児

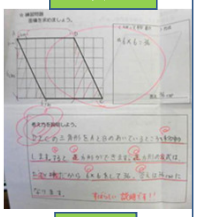


全員の前で発表
同じ考えで解いた友だちが書き込んだ直線や数字をもとに，つなげて発言をすることができた。指差しながら説明することができた。

2　授業実践報告
（個への支援）

③適用題の工夫

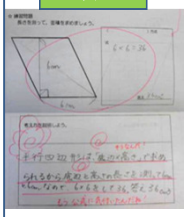
方眼あり



A児

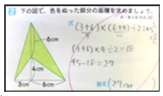
○方眼あり・なしを両面に印刷し，どちらをするか自己選択・自己決定させた。
○A児は方眼ありを選択し，「分割方式」から「切って移動（正方形をつくる）方式」に変えて解いた。
○①移動したこと
②正方形ができたこと
③面積の公式
④実際の数字による式
⑤答え
と筋道立てて説明できた。

方眼なし



3　成果と課題

【成果】
○学級全員が目標を達成することができた。
○A児は必要な情報を選択し，筋道立てて面積を求められるようになった。



【課題】
▲つまずきの想定が不十分だった。
（底辺と高さの設定で悩んでいた）
▲ペアトークのレベルアップが必要。
▲困ったときにどう発信するかのルール作りをする。